

スウィート・リチャード

12月4日

サービスラーニング

ファイナルペーパー

オードテラスで一、二年生の為にレッスンプランを作り、様々な日本の文化と言語について教えた。例えばサンクスギビング休みの前に生徒達は両親に感謝を表す様に、私達がお父さんとお母さんという言葉を教え、サンキューカードを作った。このハローキティマスクも授業中に作った。ハロウィーンの前にコスプレについて発表し、日本の代表的なキャラクター、つまり、マリオやセーラームーンのようなキャラクターのマスクを生徒達に選ばせ、描いた。最後に十一月の始まりぐらいに運動会をやり、ラジオ体操について教えた。運動会では、一つのアクティビティとして人間カタカナをやった。ずっと前から、カタカナを教えていたので、この様なアクティビティを通して、復習が出来た。

サービスラーニングの授業を取る前は、ボランティアをあまりしなかったし、少数民族の問題やアメリカ人の男性として持っている権利について考えることが無かったし、社会の問題、特に人種差別等に目を向けることがなかったである。しかし、オードテラスに行ったり、この授業で様々な記事を読み、ディスカッションをしたりすればするほど、その様な問題に対して意識が生まれてきた。更に、振り返

ってみれば、今まで他の立場の人を全然考えずに、自分の狭い見方だけで人生を歩んできたことにも気づいた。

私はアメリカの白人男性ということだけで、何もせずに色々な権利を獲得してきた。ペーギ・マッキントッシュによって書かれた「Unpacking the Invisible Knapsack」という記事は、白人の権利について述べている。例えば、「私の子供は白人の為、人種差別のせいで暴力を受けることが無いので、民族主義について学ぶ必要がない」や「白人だけに焦点を当てた授業は見つけやすい」等が書かれている。この様な権利について考えないと、せめて白人としてはちゃんとサービスが出来ないと思う。

何よりも、「Act Locally, Think Globally」という表現はサービ斯拉ーニングをするにあたり大事な教訓だと思う。私達はボランティア活動する時に、目的が大きすぎると、かえって、何も影響が与えられない可能性が高いと思う。一方で、もっと細かく限定してみると、その範囲に少しずつ影響を及ぼし、変化する様になるでしょう。私達はアウトリーチを通して、日本について様々なことを教えることで、ステレオタイプを少しずつ壊してきた。私達がサイトに行くことを終えても、これらの影響は子供達の人生にずっと響き渡り続けると願う。ですから、あの子供達が大人になり、やっと社会に入る時に、グローバルゼーションの世界に進み、参加するようになると思う。

日本語を専攻している学生としては、日本語を通して、日本だけではなく、国々の社会問題に対し、意識が生まれることが出来る。齋藤先生によって書かれた「Diversity and Inclusion of Sociopolitical Issues in Foreign Language Classrooms」という記事は、文法や単語等だけでなく、基本的な社会問題を外国語の授業を通してディスカッション出来ることについての内容があった。初めて読んだ時には、実現の難しさを感じましたが、

考えれば考えるほど、サービ斯拉ーニングでやってきたことと、共通していると気づいた。最初の授業に私は生徒達に「日本について何を知っていますか？」と聞いたが、色々な原因からステレオタイプな答えが返ってきた。オレンジチキンの様な答えを貰った。しかし、日本の文化について教える度に、子供達はその間違っただけの考えを認めた。

ボランティア活動をする時は、困難になってしまう人をなるべく手伝ってみて、ボランティア活動には色々なメリットがあると思う人が多いと思う。ですが、困難になった人に対して扱い方や態度等をあまり考えない人も多いと思う。最初、オードテラスに行き始めた時には、実は私もサービスの意味をあまり考えなかった。子供達は外国語、また、日本の文化を勉強する機会がめったにないので、私達はその機会を提供しているという考え方をはじめに持った。レーメンによって書かれた「Helping, Fixing, or Serving」を読んでから、サービスに対しての私の見方は、全く変わってきた。好きな一行を引用すると「Service is a relationship between equals: our service strengthens us as well as others」と書かれた。仕事にせよ、ボランティア活動にせよ、人間としては平等なので、お互いに学ぶことが出来る。例えば、サービ斯拉ーニングのお蔭で、まだまだいい教師になっているが、私の生徒達だけ成長するのではなく、むしろ一緒に成長できれば、もっといい教育の現場になるという確信を持ちはじめた。

高校二年生のころから教育に関する仕事をやりたいと思っていたが、どの様な資格があるのか全く解らなかった。もちろんレスンプランを計画することや生徒達に教えられる力を持つことの大切さは理解していたが、生徒達への関心が薄いことに気付いてしまった。もっと深く見れば、グループだけではなく、生徒一人一人と向き合うこと

が必要だと思う。なぜかというところ、グループだけで教えたり、伝えたりしたら、問題が深く見えなくなってしまうと、サービスをやろうとしても、実際に、効果的にサービスが出来ないという結果になる可能性があるからである。

JET になりたい人としては、レッスンプランの作り方や、他の教師と一緒に計画し、実行したという経験は大切だと思う。それに、若い生徒達の扱い方も学んだ。サービスラーニングをする前に若い子供に教えるのは絶対無理だと思ったが、今学期のお蔭で、あの悩みはほとんど消えていった。